

多可町総合教育会議要旨録

令和元年度 第2回

1. 開催日 令和元年12月2日(火) 午後3時30分～

2. 場所 多可町役場 大会議室

3. 出席者

町	長	吉田	一四
教	長	岸原	章
委	員	藤田	裕子
委	員	熊田	正博
委	員	岩田	光代
委	員	安藤	和志

4. 陪席者

企画秘書課長	谷尾	諭
教育総務課長	宮原	文隆
学校教育課長	藤本	志織
こども未来課長	石井	美子
企画秘書課副課長	藤原	徹
教育総務課副課長	高橋	敏
教育総務課主査	安平	智香子
学校教育課主査	吉田	環

日程第1

会議録署名委員について

日程第2 協議事項

(1) 学校規模適正化について

日程第3 その他

【開 会】

町長あいさつ

日程第1

会議録署名委員について

藤田委員と岩田委員を指名

日程第2 協議事項

(1) 学校規模適正化について

事務局：今年6月に「中学校学校規模適正化庁内検討委員会」を発足し、延べ5回協議を重ねてきました。まず、多可町内の小中学校の現状や課題について説明をさせていただきます。

多可町教育委員会は、平成22年9月に学識経験者や区長会、PTA、学校関係者などからなる「多可町学校規模適正化検討委員会」に多可町小中学校の適正規模と適正配置について諮問しました。

子どもたちにとって望ましい教育環境を提供するためには、「クラス替えができることの効果」や「子どもたちには適度な切磋琢磨が必要である」という観点から、小学校においては1学年2学級以上、中学校においては1学年3学級以上の学校規模が望ましいと考えます。しかし、平成23年度において、すでに小学校では7校中6校に単学級があり、中学校では3校中2校が2学級となっていました。こうした多可町の喫緊の状況から、多可町においては、小学校では複式学級が生じないこと、中学校では1学年2学級以上が学校規模の適正であると平成24年2月に答申を受けました。

それを受け、多可町教育委員会では平成24年4月に「多可町小中学校規模適正化基本方針」を定めました。また、それに基づき、「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置し、各区の小学校、中学校について協議いただきました。その内容をもとに、平成25年3月に「多可町学校規模適正化基本計画」を策定しました。

この「多可町学校規模適正化基本計画」では、中区、加美区の小学校は当面現状維持、八千代区の3小学校は早急に1つに統合、全中学校は当面現状維持としながらも、保護者や住民に、中学校における小規模化の課題を周知し、議論を重ね、方向性を見極めていくこととなっています。そして、この基本計画に基づき、平成28年4月1日に八千代区の3小学校を1つに統合しました。

《小規模校によるメリット、デメリット》

現在、多可町内のすべての小中学校が、国の基準に基づく学校規模では小規模校となっています。小規模校では、児童生徒数が少ないことから、一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。人間関係が深まりやすく、学校が一体となって活動しやすいなど良い面があります。しかし、一方で、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。運動会や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすいなどの課題があります。また、学校運営上の課題として、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教員の配置を行

にくい等の問題があります。

《中学校生徒数・学級数の推移》

中町中学校は当面2学級が続きますが、加美中学校は、令和3年度に単学級ができ、令和10年度にはすべての学年が単学級となる見込みです。八千代中学校は、令和5年度に単学級ができ、令和9年度にはすべての学年が単学級となる見込みです。

部活動については、子どもの減少に伴い、部活動の選択肢が狭まったり、部員数不足により単独での大会出場が困難となってきていたりしています。令和元年度は、野球部とサッカー部が混合チームになり八千代中学校女子バレーボール部が廃部になりました。今後、中町中学校男女バスケットボール部が廃部予定となっています。

《小学校児童数・学級数の推移》

中町南小学校は、令和4年度に4学年が単学級となり、令和7年度には、5学年が単学級になる見込みです。中町北小学校、松井小学校、杉原谷小学校は、今後も単学級が続きます。杉原谷小学校においては、令和7年度の1年生が8名、2年生が7名となり、複式学級の検討が必要となる見込みです。八千代小学校は、令和6年度にすべての学年で単学級となる見込みです。

多可町では、今年度、昨年度の出生率が100人未満となっており、今後も、この状況が続くと想定されます。今後、多可町で一つの小学校を運営し、1学年2学級を確保することが多可町として目指す方向ではないかと考えます。

町長：ただいま事務局が説明しましたが、何か質疑等ございませんか。

委員：児童生徒数の減、学級数の減を現実問題として受け止め、5、6年先のことを考えておかなければいけませんね。小規模校による良い面、考えるべき面があります。しかし、今の社会の流れからすると、大勢の中で支える方が子どもたちのためになるのではないのでしょうか。子どもは家で育つ、集団の中で成長すると思います。多ければ多いほど良いということではありませんが、ある程度の人数が集まることで、子どもたちの力や良い面が見いだせ、成長すると思います。

統合は建物が一緒になると同時に人が一緒になります。統合するまでに、児童生徒数や建物を考えることも大切ですが、日頃から、子どもたちが一緒になるということを念頭に置き、マナーやルール、生活の中身、勉強などを学校で子どもたちに考えさせるなど、多角面から進めていかなければならないと思います。

町長：子どもたちのことを第一に考えなければならないですね。

委員：子どものことももちろんですが、学校訪問に伺うと先生方が大変忙しくさられていました。統合することで、先生方の負担を軽減することになると思います。そうすることにより、子どもたちに良い影響が出るとおられます。

町長：余裕があることで、子どもたちと向き合う時間が増え、子どもの姿がより見えてくることもあるでしょうね。

先生方から忙しいということは聞いています。実際、昔に比べて忙しくなっているのでしょうか。

事務局：子どもの数が減り、また核家族が増えたことにより、これまで地域や家庭で担ってきていただいたことを学校で担う場面も増えてきたように思います。

教育長：支援を要するという部分で、学校だけでは解決策が見つからず、教育委員会も一緒になって検討しなければならない事項が最近多くなりました。専門家のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、家庭相談員、関係機関、健康課の力を借りないと良い方向にいかない。子どものトラブルの解決と、それを含めた家庭の支援が直接子どもの学校生活の中に現れてくる部分があります。先生の力だけではいい方向が見いだせない。町をあげて支援しながら子どもを育てていく。こういったところが非常に大きくなってきたように思います。

委員：今から、しっかりと計画を立てなければ、小学校と中学校が同時に、または期間を空けずに、統合しなければいけないことになってくるのではないですか。

中学校の部活動で、野球部・サッカー部が部員不足ということですがどちらもしている子は多いです。しかし、近年はクラブチームに行く子が増えていますね。

教育長：社会教育委員会の中でも、クラブチームなど学校の部活以外に所属しているが、それを止める何かいい方法はないのかという意見がありました。しかし、そこに制約を付けることは難しい状況です。

委員：野球では、軟式と硬式ではスタイルが違いますし、子ども達は楽しんで行っているので、難しいですね。

町長：中町中学校の1年生ですと、生徒数79人に対して部活動に所属している生徒が67人。残りの12名が部活動をしていない、もしくは他で活動しているということですか。

事務局：そうですね。部活動に入っていない生徒もいますし、他のクラブチームに所属している生徒もいます。

町長：部活動については、指導する教員がないという問題やクラブチームが身近にあるということもありますね。専門の教員が指導をすればクラブチームに流れなかったかもしれませんね。

委員：部活動の指導者については、来年度から専門の方が指導者として入ることが可能になるということを知りました。その制度がうまく機能して、部活動が盛り上がればいいですね。

町長：私も以前ボランティアで部活動の指導をしていました。試合に引率したこともあります。地域の人が教員を助けることも必要ですね。

委員：中学校に入学する子の保護者から、子どもが入りたい部活がないと言っていると知りました。表を見させていただくと、八千代中学校の部活動の選択肢が少ないのは一目瞭然で、部活動を楽しみにしている子からすると選択肢が少ないのはかわいそうですね。混合チームにすることで、みんなで練習や試合ができるのであれば、その方法がよいと思います。しかし、練習場所の問題や移動の問題があります。学校の統合のこともありますが、部活動のあり方を先に考えなければいけないのではないかと思います。

町長：やりたい部活動がないというのも、クラブチームに所属する一つの要因になりますね。

教育長：例えば、A中学校には野球部があり、B中学校にはバスケットボール部がある。A中学校の生徒がB中学校の部活動に参加する、また、B中学校の生徒がA中学校の部活動に参加するというのを平素から行っているところもあります。これは子どもが動きやすい環境であれば可能ですが、多可町では

夕方限られた時間の中で、上手く移動できるかという問題が発生してきます。しかし、そういったことも取り入れていく必要があると思っています。

委員：小学校と中学校の統合は、どちらを先に考えておられるのですか。

教育長：委員の皆さんはどう思われますか。

委員：八千代小学校は統合したばかりですが、令和4年度にはすでに5学年で単学級となっています。それを考えると、どちらが先なのかなとは思いますが、やはり中学校が先に行う方がよいと思います。

中学校を統合する時には、小学校のことも考えておく必要があると思います。新しく中学校を建てるにしても、別のスペースがあり、将来、小学校を建てるなど長期のビジョンをもって計画していただきたいと思います。

教育長：その時、その時の考えで動く、前段階でこうしておけばよかったということになりかねません。1ステップ、2ステップ、最終形とビジョンを常にもっていないといけないですね。

委員：視察研修で近江八幡市の桐原コミュニティエリアに行かせていただきました。コミュニティセンターを併設しており、お年寄りの方が、子どもを見たり、一緒に遊んだりしている環境が素晴らしいと感じました。多可町でも実現できればいいなと思いました。

町長：小学校では複式学級が生じない、中学校においては1学年2学級以上という多可町の基本方針に従うと、いつになりますか。

事務局：中学校は、令和3年度に加美中学校で単学級が出てきます。そして、令和5年度には、加美中学校の2学年が単学級となります。この時点で、各教科の専門教員の配置が難しくなってきます。中学校については、なるべく早い段階での統合が望ましいと思います。

委員：町で教員を補充していただくことは財政面のこともありますし、難しいですよ。

町長：統合までの期間、町費教員の配置ができたとしても、それを続けることはできません。

事務局：令和9年度には、加美中学校で2学年が、八千代中学校ですべての学年が単学級となります。その時点ではどんなに遅くても、統合をしないと子どもたちに望ましい学習環境が提供できないと考えられます。

町長：令和9年度に1年生になるのは何年生まれの子どもですか。

事務局：現在4歳児の子どもになります。

委員：中学校は、遅くとも令和9年、10年には、新しい形でスタートしていなければならないということですね。

小学校については、杉原谷小学校と松井小学校、中町南小学校と中町北小学校が統合したとしても、数年しか機能しないことになるので、二段構えにすると二度手間になります。小学校も一度に統合するのが望ましいと思います。

委員：中学校を統合する際、小学校が併設できる場所も確保することが必要ではないでしょうか。中学校ができればそれでよいという訳にはいかないと思います。同じ敷地にあることで、通学バスの利用がしやすかったり、中学生が小学生の面倒を見たりといろいろな面で助かることがあると思います。

委員：小中一貫校も視野に入れるべきではないでしょうか。そうすると、小学校と中学校を近隣に建設する必要があります。建設場所としては、移動距離のこともありますので、多可町の中心がよいと思います。

桐原コミュニティエリアのように、学校の近くに年配の方がおられるという事は、子どもたちが落ち着くきっかけになるのではないのでしょうか。参観日でもそうですが、子どもたちは誰かが傍にいれば落ち着きます。子どもたちだけで生活していると有頂天になってしまったり、落ち着きがない場面も出てきたりします。地域一体型の学習地域は子どもたちを落ち着かせる一つの方法かなと思います。小中一貫校と同時に地域一体型の学校を目指してはどうかと思います。

町長：子どもの数が急に増減することは考えにくいです。先を見通して準備をすることが必要だと考えています。

教育長：「地域の学校教育のあり方を考える会」を各区で開催した時に、中区、加美区、八千代区のそれぞれに小中一貫校を作ってはどうかという意見がありました。その際、それはあまり効果がない。もう少し中学校の母体そのものが大きく、常時3クラス程あればよいが、現状では中学生にとってメリットがないという話をさせていただきました。先々のことを考えていけば、町内で1中学校、3小学校、そして1中学校、1小学校も考えざるを得ないのではないかと思います。ただ、一挙にするのか、ステップを踏んでいくのか。どちらにしても、先々の構想はもっておく必要があると思います。

委員：通学に関しては、朝・夕の時間帯だけです。バスを走らせるのはそれほど難しくはないと思います。実際、高校の通学バスとして神姫バスが町内を走っています。

町長：小学校・中学校は地域に根付いています。そのため、八千代小学校の統合の際にはたくさんの反対の声がありました。特に、小学校は地域の小学校という思いをもっておられますので、小学校より中学校の方が統合しやすいかもしれませんね。

委員：中学校を統合する際に、中学校を建設して終わりとならないようにしていただきたい。いずれここに小学校が来るんだという気持ちだけはもっていただいて、用地確保や利便性について考えていかなければならないと思います。

また、昭和38年に杉原川が氾濫し中町北小学校が水害にあいました。用地を検討する際には、様々な要因を考慮し、検討していただきたいと思います。

町長：学校規模適正化については、今の状況を住民の方にも知っていただきたいと思っています。いろいろな場面で少子化の話を見せていただいているのですが、そこまで意識がないのが現状です。突然、統合の話になると混乱を招きますので、前もって知っていただきたいと思っています。

来年の4、5月に住民説明会で各集落に行かせていただきます。その中で、子どもの数が少なくなっています。学校の体制を変えていかなければいけません。ということをお話しさせていただき、住民の方から様々な意見を聞かせていただきたいと思っています。

事務局：今後の予定としましては、住民説明会を終えたのちに、「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げます。ここでは、多可町としての長期計画を住民の方に示しながら、小・中学校それぞれについて、具体的に協議を重ねていきたいと思っています。

委員：部活動指導員の配置は、ありがたく思います。しかし、全てを指導員の考えに任せてしまうと、指導員がひとり歩きしてしまう恐れがあります。そうならないために、町として、練習日、場所はもちろん、専門的な指導や生徒

指導を含めて、何を生徒に教えていただくのか具体的な部分を示す必要があると思います。

事務局：実際に、おっしゃられたような課題があります。学校の教育方針や多可町が昨年作成しました「部活動ガイドライン」の方針に従って指導していただける方を部活動指導員に認定させていただきます。来年度については、これまでに部活動を経験したことがある方にお世話になりたいと考えています。

日程第3 その他

町長：では、「その他」です。なんでも結構です。

委員：予算も厳しい中で、全校にエアコンを設置していただきありがとうございました。子どもたちも喜んでくれています。

委員：中学校では学校に行きにくい子が、行ける時間に行ってそこでスクールラブさんがついてくださり勉強するという場所があるようです。小学校には、保健室がありますが、保健室に遊びに来る感覚の子もいるようです。そうになると、教室に行きにくいので保健室に行きたいが、そこにも行けず、居場所がなくて帰るといふ子もいると思います。小学校でも、保健室の次に行ける場所があればいいなと思います。

事務局：現状の話になりますが、中学校は不登校支援員としてスクールラブを配置しています。小学校には、スクールアシスタントや生活補助員を配置していますが、不登校の子が教室に行きにくい場合、学習の支援をするという体制ができていないのが現状です。

先程までの話にもありましたように、先生の数が少なくなり、それに伴い、先生の空き時間もない状態です。大きな学校ですと、空き部屋にスペースがあって、そこで授業のない先生と学習に取り組むということが出来ます。これからは、そういった環境が大切になってくると思います。安心して過ごせる居場所を作ることは必要だと思っています。

町長：図書室はどうですか。

事務局：場所として、図書室を利用するのは良いと思います。しかし、子どもを一人にすることは危険ですので、そこに先生が付くのが基本となります。

教育長：クールダウンで使うようなハーフサイズの教室がある学校もありますが、すべての学校にあるわけではありません。また、そこには先生が付く必要があります。小学校では、複数指導や少人数授業で先生の空き時間というのはほとんどありません。しかし、今からその部分は必要となってくると思います。

委員：多可町が子育て支援に力を入れていただいているのはありがたいと思います。広報で空き家対策の記事がありましたが、IターンやUターンで、若い方に帰ってきてもらうことが重要ですね。

町長：他に何かご意見ありませんか。

それでは本日予定しておりました第2回総合教育会議の議事日程がすべて終了いたしました。ご協議していただきましてありがとうございました。

【閉 会】 町長 午後4時50分 閉会宣言

令和元年12月2日

-----[®]

-----[®]